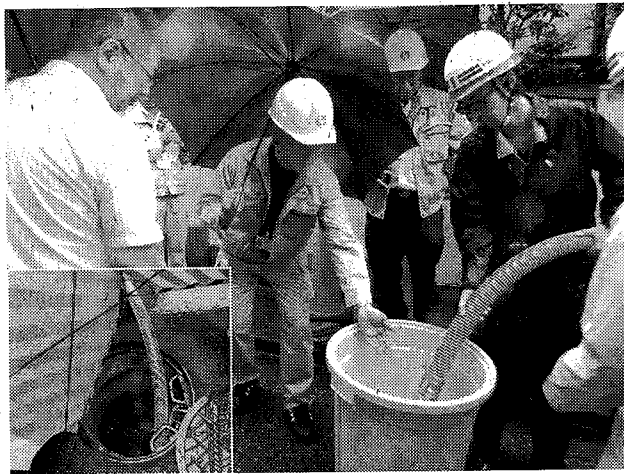
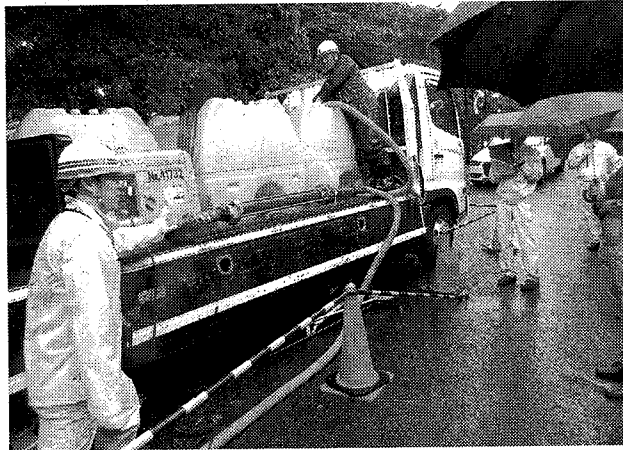


多摩市でアイスピグ洗浄

東亜グラウト工業



含水率82%、マイナス5℃のSISを使用
末端側から注入した④



ポンプ側の回収口で水圧などを監視

東亜グラウト工業は8日、東京都多摩市連光寺1丁目地内の下水圧送管を「アイスピグ管内洗浄

工法」で洗浄した。同市の都市整備部下水道課からの受注案件で、マンホールポンプ圧送管の洗浄

は都内で初めてとなる。鴨志田修・同課業務係長や、隣接する稲城市の村山正俊・都市建設部下水

道課長をはじめ市の職員も現場に立ち会い、洗浄工程を見学した。今回の施工は延長が約

1.22キロの1000のダクタイル鑄鉄管。ポンプ位置と圧送管の末端の高差が約10メートルあるため、洗浄の始点と終点を逆にして末端側から特殊アイスピグ(シャベット(SIS))を注入し、形成したアイスピグをポンプ側に押し出す方法で洗浄した。洗浄に使用したのは、同社の浦安技術センターで製造した含水率82%、マイナス5℃のSIS約1トで、運搬専用車「デリバリーユニット」(2・2ト×1台)で搬入した。SISの品質を保つための特殊車両で、保冷機能と攪拌機が装備されたタンクと、SISを管内に注入するポンプを搭載している。注入したSISはアイスピグを形成し、管内に堆積した来雑

物を含み込む。ポンプ側の回収口には、水温、圧力、流量、電気伝導度、濁度を測定するFAS

マンホールポンプで都内初 下水道展がきっかけに

(水質監視機)が設置され、注入口と無線機で連絡をとりながらアイスピグの到達状況を確認し、押し出す水圧を調整する。洗浄効果を視認できるように設けられた透明なアクリル管を通して、真っ黒だったアイスピグが透けて見えるほどにまで変化していく様子は一目瞭然。洗浄圧力は0.3MPa、SISの注入から洗浄終了までは30分以内と、いずれも想定通りだった。鴨志田係長は、「アイスピグ管内洗浄工法を知ったのは、7月の下水道展15東京の東亜グラウト工業の展示がきっかけ。稲城市も同じ展示を見て興味をお持ちということなので、今回、試験的な施工と見学会を兼ねて声を掛

けた。当市は丘陵地帯で傾斜の多い地形なので圧送管の効果的な洗浄工法を探していた。これまで、1年から2年に1度、定期的に高圧洗浄をしていたが、どうしても取りきれない汚れがあり、また長時間の機能停止は支障があるので、短時間で成果が出るという工法を試してみたいと思った。村山課長も実際に効果を見て感心していたようだ。次は250メートルも試してみたい」と話した。アイスピグ管内洗浄工法は、水道、下水道を問わず、異形管や口径が途中で変化する管路、伏せ越管などあらゆる形状の管路で洗浄効果を発揮する。管路延長で15キロの施工実績があり、着々と距離を伸ばしている。